

主日礼拝

2023年2月12日（日）

題 「主イエスの記念として」

テキスト：ルカによる福音書22章1～23節

皆さん、おはようございます。

今年に入って礼拝では、ルカによる福音書を少しづつ学んで来ましたが、
今月22日からレント・受難節に入ります。イエスの十字架への道をたどる時
です。そのために今回からはそれに合わせた聖書箇所を学びたいと思っていま
す。今日の箇所には「イエスを殺す計略」と「過越の食事を準備させる」、そし
て、「主の晩餐」いわゆる最後の晩餐の場面が出て来ます。

わたしは、この箇所を読んで、地上の歩みが近くなったとしたら、どのよう
な物を食べてみたいだろうか？と思ったのです。もともと、子どもの頃から食
べることにはあまり興味のない方だったのですが、洲本に来てからは、食べも
が美味しいせいなのか、何だか食べることに遅ればせながら興味が出て来たよ
うにも思えます。ところで皆さんは、地上の歩みの終わりがあまり残されてい
ないと知ったらどのような物を食べたいですか？誰と食べたいですか？おそ
らくそれぞれ異なっていると思います。今日はイエスと弟子たちの最後の晩餐
に至る経緯を見て行きましょう。

「◆イエスを殺す計略」いきなり物騒なことが書いてあります。

1:さて、過越祭と言われている除酵祭が近づいていた。

この祭りは、ユダヤ教では毎年守られている祭りで、イスラエルの民の出
エジプトを記念する祭りです。昔イスラエルの民は、強国エジプトで奴隷の民
として生きていました。学問的には諸説ありますが、紀元前1000年以上前、
指導者モーセをリーダーとして、神の救いの計画で、エジプトを脱出して、当
時乳と蜜の流れる地と言われた、現在のイスラエル地方、当時のカナン地方に
向けて脱出の旅、40年に亘る旅をしました。この旅に出る前に、イスラエル
の民は神の声を聞いて、大急ぎで食事をして大勢の民はエジプトを逃れるた
めに後にしました。この出エジプトを記念する祭りが過ぎ越しの祭りなのです。
聖書の出エジプト記12章13章に記されています。酵母の入ってない種なし
パンを食べるのです。とにかく大急ぎで逃げたのです。イスラエルの民の苦難
と、神さまの救いを思い出し忘れないために、毎年現在に至るまで祝われてい
る祭りです。

主イエスの生きられた時代に戻りますと、約2000年前、ユダヤを治めて

いた権力者たちは、イエスの人気を恐れていたのです。そこで、聖書にあるように、2:祭司長たちや律法学者たちは、イエスを殺すにはどうしたらよいかと考えていた。

そして、それに合わせるかのように、

「3:しかし、十二人の中の一人で、イスカリオテと呼ばれるユダの中に、

サタンが入った。」サタン・悪魔の誘惑により弟子のユダの心の闇の部分にサタンが入り込んだのです。ユダはイエスの選ばれた弟子の12人の一人です。ユダはイエスを裏切ったのです。これはとても考えられないような悲しいことです。また恐ろしいことです。でも事実起こったことです。どうしてユダはイエスを裏切ったのでしょうか？後に記してあるように、ユダヤはイエスを裏切ることによって大金を手に入れます。しかし、ほんとのところ、ユダがイエスを裏切った理由は、分からず、闇の中なのです。わたしも分かりません。この2000年間、世界中の著名な神学者たちがこの謎を解明しようとしてきましたが、未だ不明であり、謎としかいいようがないようです。皆さんは、どう思われるのでしょうか？

4:ユダは祭司長たちや神殿守衛長たちのもとに行き、どのようにしてイエスを引き渡そうかと相談をもちかけた。

5:彼らは喜び、ユダに金を与えることに決めた。

6:ユダは承諾して、群衆のいないときにイエスを引き渡そうと、良い機会をねらっていた。

金をもらうことで師であるイエスを裏切ったユダの心はどのようなものであったのでしょうか。ちなみにユダは最後は自ら命を絶ちました。

さて、ここからイエスと12人の弟子たちとの過越しの食事の準備の場面を聖書は記しています。

◆過越の食事を準備させる

7:過越の小羊を屠るべき除酵祭の日が来た。除酵祭とは、過越の祭りのことです。

8:イエスはペトロとヨハネとを使いに出そうとして、「行って過越の食事ができるように準備しなさい」と言われた。

イエスは弟子の内のペトロとヨハネを食事の準備のために派遣します。

この二人は、イエスが大切な時にいつも共にいた二人です。

イエスはこの二人の弟子に準備の段取りを伝えます。ここを読むと、イエスは既にあらかじめ準備の段取りを手配しておられたようです。

9:二人が、「どこに用意いたしましょうか」と言うと、

10:イエスは言われた。「都に入ると、水がめを運んでいる男に会う。

その人が入る家までついて行き、

11:家の主人にはこう言いなさい。『先生が、「弟子たちと一緒に過越の食事をする部屋はどこか』とあなたに言っています。』

12:すると、席の整った二階の広間を見せてくれるから、そこに準備をしておきなさい。」

13:二人が行ってみると、イエスが言われたとおりだったので、過越の食事を準備した。

この「二階の広間」は、「アッパールーム」と呼ばれ、現在、エルサレム町にはその場所だと言われる部屋が残っています。ちなみに、この「二階の広間」は、「アッパールーム」は、イエスが十字架につかれ死に、3日後によみがえられた40日後に起こったペンテコステ（聖霊降臨日）にイエスを主と信じる弟子たちや大勢の人たちが集まって祈っていて場所でもあります。

さて、ここから、いよいよ「主の晩餐」、イエスと弟子たちとの最後の食事の場面です。

14:時刻になったので、イエスは食事の席に着かれたが、使徒たちも一緒だった。

この場面は西洋の絵画で、レオナルド・ダビンチの「最後の晩餐」として有名です。ちなみに徳島の大塚国際美術館に行くと、この絵の、修復前の絵と、修復後の絵が同時に見ることが来ます。陶板画ですが、両方を同時に見ることのできるのは、今や世界中でここだけです。

イエスは愛する弟子たちに切々と語っておられます。

15:イエスは言われた。「苦しみを受ける前に、あなたがたと共にこの

過越の食事をしたいと、わたしは切に願っていた。

16:言うておくが、神の国で過越が成し遂げられるまで、わたしは決してこの過越の食事をとることはない。」

ここで「わたしは切に願っていた。」というイエスの言葉は、わたしの胸に迫りました。この言葉は、他の日本語の聖書の訳では、「過越の食事をしたくて、したくて、たまらなかった。」とか、「望みに、望みたり」という言葉で記されています。ほんとに主イエスは、十字架の苦しみを受ける前に、自分の死を自覚され迎える時に、旧約聖書に記された、いにしえに起こった神の救いの出エジプトの救いの出来事を思い出す食事を弟子たちと一緒にされたかったのだと思わされました。

そして、おもむろに、杯を取り上げ、感謝の祈りを唱えてから言われたのです。

「これを取り、互いに回して飲みなさい。

18:言うておくが、神の国が来るまで、わたしは今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。」

19:それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい。」

「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。」これは十字架に捧げられた主イエスの生きた体を意味しています。

「わたしの記念としてこのように行いなさい。」と。「わたしの記念として」という言葉は、他の聖書では「**わたしの思い出として**」とも訳されています。弟子たちは、イエスの死後、聖餐にあずかる時、この時のイエスを思い出したと思います。今を生きるわたしたちも聖餐・パンとぶどう酒に与る時、イエスを思い出すことが出来るのです。

20:食事を終えてから、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である。

杯は、主イエスが十字架で流された愛の血潮を表します。聖餐の時は、主イエスの愛を受ける時でもあるのです。

そしてイエスは、弟子たちの中に自分を裏切る者のいることを告げました。

21:しかし、見よ、わたしを裏切る者が、わたしと一緒に手を食卓に置いている。

22:人の子は、定められたとおりに去って行く。だが、人の子を裏切るその者は不幸だ。」

主イエスは、この時どのような気持ちだったかと思います。推測できないほどの苦しみであったのではないのでしょうか。

神学者カール・バルトは、このユダの「引き渡し（裏切り）」について深い洞察を行っています。

ユダはイエスを神に引き渡したのです。それはイエスへの裏切り行為です。イエスを裏切ることによって結果イエスを裏切り、十字架の死に引き渡したと言えます。これはあってはならない悪であり、罪です。

ただ神はユダの罪と悪を用いて愛する独り子イエスを十字架にかけ、ユダを含めてすべての人間を罪を赦すという出来事、罪の救いの出来事を実行されたのです。わたしは、島田 巖牧師の短歌集「真夜中のウォーキング」の中の一つの短歌を思い出しました。「イエスとは自分の弟子に捨てられて抜け殻になった神の独り子」。イエスは弟子たちや世の人々に捨てられた神の独り子なのです。

イエスは、ユダが自分を裏切ることを承知の上で、ユダも共に最後の食事をされたのです。ユダへの愛は変わらなかったのです。

この時、イエスの心の苦しみに気づく者は弟子たちの中に誰もいなかったようです。

23:そこで使徒たちは、自分たちのうち、いったいだれが、そんなことをしようとしているのかと互いに議論をし始めた。

12弟子の一人であるユダはなぜイエスを裏切ったのでしょうか？これは謎で、わたしも正直分かりませんし、これからも謎のままのように思えます。

しかし、十字架につかれたイエスの愛は自分を裏切ったユダの上にも、わたしたちの上にも、すべての人の上に注がれているのだと信じます。そして、神はご自身のみ子をさえ惜しまないで、わたしたち罪の中にあるすべての人間のために十字架の死にわたされたのだと思います。

神の子であり人の子であるイエスの十字架の死によってすべての者の罪からの救いが成ったのだと信じます。

皆様の上に主の平安を祈ります。共に黙想しましょう。